



郡大会、応援をして回りました。各部とも全力で闘う姿、声をからして応援する姿が心に残りました。ハンドボール部が3位、野球部、女子卓球部、男子剣道部がベスト8に進出しました。個人戦で、陸上競技で岸岡賢真君と北村はるさん、柔道で鈴木啓人君と高木泉里さん、卓球で畑中彩月季さんが県大会に出場します。

終業式 校長式辞

昨日は、応援団にご協力ありがとうございました。みなさんのおかげで気持ちよく応援団がやれました。

1学期、「愛と夢のある学校」を目指して、やってきました。「愛のある学校」は、人と人が温かい人間関係で結ばれている学校だと言いました。人間関係づくりの第1歩は挨拶です。挨拶の意味は「自分の心を開いて、相手の心にせまる」です。自分の心を開いて相手の心を開かせるような挨拶ができるようになりましたか？3点、2点、1点で自分を評価してください。・・・(挙手)・・・



相手の心を開く挨拶をしよう！

温かい人間関係ができていれば、不登校はなくなるはずですが、でも、なかなか学校に来れない生徒もいます。温かい人間関係づくりに努力できたでしょうか？3点、2点、1点で評価してください。・・・(挙手)・・・だれかとだれかがつながっている学校でありたいと思います。みんなで温かい人間関係づくりに努力していきましょう。

いじめがないことが「愛のある学校」の最低ラインです。ラインによるいじめに近いことがありました。3点、2点、1点で評価をしてください。(1点の人は、いませんでした。)ラインやメール、掲示板への書き込みなど、送る前に「だれかの悪口になっていないか」確認してから送ることが大切です。

「夢のある学校」は、私が笹をとってきて、みなさんが短冊に「夢」や「願い」を書いて笹に飾ってくれました。ありがとうございます。今も玄関に飾ってあります。少し、「夢のある学校」に近づいたかな？

さきほど、陸上の郡大会、岸岡賢真君と北村はるさんの表彰をしました。一足早く県大会出場が決まっています。そして、野間中学校として郡大会の幸先の良いスタートが切れたと思います。明日から郡大会。どの部も県大会に行けるよう願っています。健闘を祈ります。

1・2年生のみなさん。特に2年生。郡大会が終わると、次は君たちが主役だ。新チームのスタートが肝心。どんなチームにするのか？あなたたちにかかっています。半田祭での勝ち負けは、この夏休みで決まります。

部活動、勉強、ボランティア、趣味など、いろいろなことに挑戦し、充実した夏にしてください。そして、9月1日、全員がそろって学校に来てくれることを願っています。

学年代表スピーチ

私の1学期

6月の初めから今日まで、野間中学校に体験入学させていただきました。私は野間小学校出身なので、野間小学校の友達に会うのは2年ぶり、上野間・奥田の友達には初めてということになります。「仲間に入れてもらえるかな」という気持ちでいっぱいでした。そんな不安は、学校に行き始めて一日で吹き飛びました。みんなが笑顔で迎えてくれて、初めての友達も気さくに話しかけてくれて、すごくうれしかったです。

今から2年前、私はお父さんの仕事の都合でアメリカへ引っ越しました。まず、ぶち当たったのは「言葉の壁」です。最初の数ヶ月は、先生の話していることを聞いているだけで、授業は何をいっているのかわからず、とてもつらかったです。だけど、時が経つにつれて、英語もわかるようになり、授業にも参加できるようになり、楽しくなっていました。なによりも、友達と話すことができるようになり、学校へ行くのが以前よりも楽しくなりました。アメリカで生活を始めてからの一日一日の積み重ねにより、アメリカに慣れて



1年A組 野中すみれさん

英語が理解できるようになり、友達が出来ようになったのだと思います。何気なく過ごしていた1日という時間が、とても大切だったんだと思いました。今、この瞬間、この時間を大切に過ごすことが、とても重要なことだと思いました。

私は7月24日にアメリカに帰ります。アメリカに帰ると8月15日から新学期が始まります。アメリカの学校の様子を少し紹介します。私は、ミドルスクールで math(数学) science(理科) social-study(社会) language-art(国語) band(吹奏楽) spanish(スペイン語)を勉強しています。アメリカと日本では、成績の表し方が違います。毎日、成績がつけられ、家のパソコンでチェックできます。なので、悪い成績がついたときは、その教科のできなかつたところを復習したり、先生に再テストをお願いしたりして、再び成績を上げることが出来ます。がんばれば、がんばるほど成績がどんどん上がっていく仕組みなので、まじめな日本人にとってはラッキーなことなのかもしれません。私が一番好きな教科は band(吹奏楽)です。最初は、他の楽器と音が全然合いませんでした。毎日の練習で他の楽器と音がきれいに重なり合ったときがとても好きです。

今日で、夢にまで見た日本の中学校生活は終わります。この2か月間、たくさんの経験をしました。毎日が大切な時間でした。アメリカへ戻ったら、また気持ちを切り替えてがんばっていきます。

ぼくたちの郡上八幡研修

回り出す3つの輪と心のサイクル。このスローガンは、郡上八幡研修でぼくたちが大切にしてきたものです。みんなを引っ張るリーダーシップ、互いに支え合い助け合うフォロワーシップ、この2つを高めて自ら発信できるようにするという願いが込められています。ぼくは、今回の研修は中身の濃いものになったと思っています。それは、このスローガンのもとで2年生全体の強い団結力感じられたからです。初日、入園式を行ったときには、全体や自分自身にも落ち着きがありませんでした。また、自然園内での行動も疑問に思うことも多くありました。だけど、2年生が普段から意識している注意の呼びかけが聞こえました。呼びかけをすることは、大変なことで簡単なことではありませんでした。その呼びかけにより、だんだん雰囲気は良くなっていきました。キャンプファイヤーは、神聖な雰囲気と盛り上がる雰囲気の切り替えができ、思い出に残る楽しいものになりました。スタンプに向けて練習をがんばって「良かったな」と思いました。郡上踊りでは、全員が真剣にかつ楽しく踊ることができました。このように、「オン」と「オフ」の切り替えができたので、何事も成功させることができました。ぼくは、退園式のときに周りの様子を見たら、時間への意識が高まり行動も速くなり、初日とは明らかに違いました。

僕たちの研修では、このように今できていることや足りてない点に分かり、進化するためのきっかけを発見できました。このきっかけを生かすのは、自分たち次第だと思います。研修で学んだ「オン」と「オフ」の切り替えの重要さや全員が協力したときの力の大きさなどを一人一人が忘れず行動すれば、2年生はどのクラス、学年にも負けない集団になれると思っています。なので、今より集団が良くなっていくように努力していきます。



2年B組 森田 皇君

「最後の〇〇」

3年生になってから「最後」という言葉に実感がわき始めました。部活が、そして様々な行事が「最後の」の言葉とともに終わっていきます。それとともに一步一步、卒業に近づいていきます。同時に今のままではダメということも少しずつ感じてきました。この状態を変えるチャンスがあったのは修学旅行でした。

修学旅行ではリーダーが動く場面がいくつもありました。行動する場所、班、ルールなどを計画していきました。計画をしていくとき、リーダーがクラス・学年の状況を見て、それぞれの想いを話し合っていました。その時は、まだ周りを見ていない人がいて、少し不安でした。でも、リーダーはみんなを信じて少しハードルを高くして修学旅行を迎えました。すると、修学旅行中やその後、周りで協力し意識しながら行動する人が増えてきました。

僕は、修学旅行で一人一人が何か一つ成長したことは、クラス・学年として大きな一歩を踏み出して、「最後」に近づけたと思います。そして、2学期には野中祭もあるので二歩、三歩と「最後」に向けて歩んでいきたいです。



3年A組 八木恒成君